

理学部後援会会員の皆様

6月30日（土）、平成24年度理学部春季理事会、総会ならびに懇親会が開催されました。当日は、梅雨の中休みでおだやかな日差しの中、全日程を終えることができました。

総会では、冒頭のご挨拶の中で、理学部の現状とグローバル化や人材育成等、これからの大学改革に対する理学部の考え方についてご説明いたしました。理学部は、グローバルな人材育成とは、高度な専門知識を身につけ、それを世界に向けて発信できる人材を養成することである、と考えています。グローバル化は全学の重点目標でもありますので、これを常に念頭に置き、学生の皆さんの指導を行っております。

理事会・総会の議題および報告は別途掲載のとおりです。

理事会では、議題のなかでも特に

(3)平成24年度理学部後援会予算（案）について

(4)平成24年度理学部後援会事業実施計画（案）について

に関して、議論がなされました。

理学部は防災対策の充実に努めておりますが、現在の備蓄状況はまだ十分とは言わざるを得ません。災害発生時における理学部学生のための備蓄に対し、引き続きご支援いただくことになりました。誠に、ありがとうございます。昨年度の「Science Lectureship Award」は震災のため中止致しましたが、本年度は、米国エール大学地球物理学科から唐戸俊一郎教授をお招きする予定です。昨年の理事会で、「最近の学生は、内向きで留学に慎重である。理学部として方策を取るべきではないか」というご意見をいただきましたので、理学部学生の留学に対してもアドバイスをいただく予定です。最後に、理学部後援会長賞の第1回表彰が行われましたが、盛大な拍手をもって受賞者の皆さんを祝福していただきました。

総会の後、全学カルト対策連絡会委員の工藤義広准教授から、本学の対策についてご説明いただきました。引き続き、数学・情報数理学科の新井敏康教授による、大学生の数学力―「大学数学基本調査」から見えてきたこと―、と題する講演がありました。マスコミ等でも話題になった調査の分析で、ご出席の皆様も興味を持ってお聞きいただいたことと存じます。

講演会のあとは各学科に分かれての懇談会、更には全体で懇親会が行なわれ、例年通り楽しい雰囲気の中で意見交換がなされました。理学部は、父母の皆様と連携しながら大学生活全般に関しても指導していきたいと考えております。日頃の皆様のご支援に感謝致しますとともに、引き続き変わらぬご支援を頂きますようお願い申し上げます。

平成24年7月

理学部長 大橋 一世